

# OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name): 大隅 雅斗  
所属 (School): 情報学研究科 基幹情報学専攻  
学年 (Grade): 修士 1年

留学先 (Name of overseas institution):  
ドイツ人工知能研究センター (DFKI)

留学期間 (study abroad period):  
2022/8/6~2022/9/22

記入日 (Date) 2023/3/31

## 留学レポート Study Abroad Report

### [はじめに]

私は、所属する研究室とドイツ人工知能研究センター (DFKI) とフランス国立情報学自動制御研究所 (Inria) の研究チームによる共同研究に際して行われた研究留学に参加し、ドイツのカイザースラウテルンに約 7 週間滞在しました。これまでに一度も海外に行ったことがなく、今回の研究留学が人生初の海外での長期滞在だったため、文化の違いに驚きながらも、毎日新しい経験をすることができました。

### [留学した経緯]

所属する研究室の担当教員から海外で研究してみないか？とお誘いいただいたのがきっかけです。大学院の講義と被らないように夏季休暇中に行く予定になりましたが、それは夏インターンシップと被る期間でもあったため、同学年の就活生と違う行動をすることに抵抗を感じ、当時はお誘いを受けるか非常に迷いました。しかし、もともと英語が好きで海外の人と英会話をしてみたいと思っていたこと、海外生活から得られる価値観をもって海外の人目線の日本の印象について知りたいと思っていたこと、そして、何よりも知らない場所に行って知らない人と話して新しい文化に触れたいという好奇心が強かったことがあり、研究留学に行くことを決意しました。DFKI という世界的に有名な研究所で研究活動ができるという貴重な機会を逃したくありませんでした。海外での生活や言語に対する不安は確かにありましたが、英文を読むことはできると考えていたため、後は、恥を捨てて現地の人に積極的に話しかけて、自身の英会話力を上げていこうと意気込んでいました。また、所属する研究室から派遣される学生は私だけではなく、行き先は異なるがもう一人いたことと、初めの 2 週間程は担当教員も引率として同伴してくださるといことも、今回の研究留学の決め手の後押しになりました。

### [研究活動]

今回の研究留学の目的は、私の研究課題の具体的なアプローチ方法について、世界的に最先端な研究をしている DFKI に所属するあらゆる分野の専門家から助言をもらうことで、専門的な知見を広げ、自身の研究に還元することでした。

私の研究課題の分野は、実世界ではまだ実用化には至っておらず、近年やっと研究レベルの論文が出始めたばかりだったため、具体的な実験方法をどのようにするか模索しているところでした。DFKI に到着して初めの 2 週間程はあらゆる分野の専門家を人伝に紹介してもらうことを繰り返し、最終的には具体的なアプローチ方法を見つけ出すことに成功しました。

今回の留学期間では時間的制約のために測定データの取得は不可能であったため、残りの時間を論文調査と現地のスーパーバイザーを交えた今後の研究方針についての議論に費やしました。私が疑問に思ったことをスーパーバイザーに質問することに最初は苦労しましたが、自信を持って積極的に何度も自分の意見



を理解してもらえらるまで伝えることで、多くの有益な助言をいただきました。特に、自分が伝えたいことを英語に変換できない時は、自分がしっかりとそのことについて理解できていないからだ気づき、常に頭の中を整理しておくことの重要性を学びました。

### [ドイツでの生活]

今回の研究留学では、Airbnb という宿泊施設仲介サービスを利用して一人暮らしのような生活をしていました。日本でも一人暮らしをしているため、ドイツに滞在中も生活面ではほとんど困ることはありませんでした。それでも、日本との違いから困ることが4つ程ありました。1つ目は洗濯です。ドイツでの洗濯は1回に2~3時間もかかりますし、硬水のせいか生地がすぐに痛んでしまいました。2つ目はゴミの細かな分別です。ドイツは環境保護に厳しい国であり、特にペットボトルにはデポジットが含まれているため、スーパーマーケットに持っていく必要がありました。3つ目はお店の定休日です。ドイツでは日曜日に営業をしてはいけないため、スーパーマーケットやレストランが閉まっています。コンビニや自動販売機は当然ないため、毎週土曜日までに水や食料の買い溜めを忘れると本当に困ることになりました。ただし、ケバブ屋さんは日曜日でも営業していたため、何度かお世話になりました。4つ目は気候です。全体的に湿度が低く予想以上に乾燥していたため少し喉を痛めてしまうことがありました。国が異なると生活様式も異なるため、慣れない小さなトラブルに多々見舞われましたが、逆にどれも日本では体験できないことだとポジティブに捉えることで、飽きない刺激的な生活を送ることができました。

### [DB (Deutsche Bahn) ドイツ鉄道]

ドイツ人は時間に厳格だという印象を持つ人は多く、私も実際にそうだと感じました。しかし、電車だけは時間を守ってくれませんでした。頻繁かつ大幅な遅延が発生するのは日常茶飯事で、周りの乗客はそのことに文句を言う素振りを見せず、むしろ当たり前のように受け入れていました。DB Navigator アプリで乗り換え案内を確認するのですが、大概は電車が遅延して到着するため、時間通りに乗り換えできることはほとんどありませんでした(なぜなら、乗り換え先の電車は待ってくれないからです)。ある休日に2回乗り換えをしてハイデルベルク城に観光に行きましたが、その日の復路で、1回目の乗り換えに間に合わず30分遅れ、その後に乗車した電車が故障して途中で止まってしまい、代替列車が到着するまで1時間待機し、最後の乗り換えも当然間に合わず1時間遅れ、合計2.5時間も待たされてしまい終電で何とか帰宅する羽目になりました。別の休日では、前日に座席を予約したにもかかわらず、当日その列車が故障して別の列車に変更されてしまい、座席の予約が無効になっていました。日本のように定刻通りに電車は走っておらず、またそれを補完する体制も不十分であるため、大幅な余裕を持って予定を立てる必要がありました。DBを特に夕方以降に利用する方はご注意ください。



### [ドイツでの食事]

基本的には自炊をしていましたが、レストランにも何度か行きました。スーパーマーケットの食料は安いですがレストランの値段は高いため、食費は高くなりました(円安の影響もありました)が、異国の料理を堪能することができて満足しました。

ドイツ料理と言えば、肉とジャガイモです。料理の繊細さを追求するよりは、素朴で豪快な料理が多い印象



があります。代表的なドイツ料理は「シュニッツェル」です。これはドイツ版のトンカツのような料理で、どのレストランにもありました。味付けはシンプルにレモンのみ、キノコクリームソース、ガーリックチーズなど様々なバリエーションがありました。写真からわかる通り、主食は白米ではなく、山盛りのフレンチフライ（フライドポテト）でした。また、ドイツでは基本的に無料の水道水を頼むことはしないので、別料金でドリンクを頼むことになりました。いつも大きなお肉と山盛りのポテトが運ばれてくるため非常に満足していましたが、毎回全部残さずに食べ切っていたら胃が大きくなってしまいました。衣が薄く全然脂っこくなくてとても美味しかったです。あるレストランでは他のお客さんがお肉を2枚（zwei）で頼んでいるのを耳にして、沢山食べるなど驚きつつも、次回行く機会があれば私も挑戦してみたいと思いました。



他にも、ソーセージなどの様々な種類のドイツ料理を食べましたが、最後に特別に紹介したいものがあります。それはドイツ発祥のデザートである「バウムクーヘン」です。ドイツではクリスマスの時期に特別に食べられるそうですが、私は夏に滞在したため、DFKIのあるカイザースラウテルンには全く売っていませんでした。どうやら、バウムクーヘンはドイツの伝統工芸品のような扱いをされているようで、決められたところでしか販売されていないらしく、ドイツ全土で見ても売っている場所がほとんどありませんでした。購入できないのかと諦めそうになりましたが、なんと今回の留学中で行ける近場であるミュンヘンの名店クロイツカムに行けばバウムクーヘンを買えると聞いたため、片道4時間かけて食べて買ってきました。もちろんDBは遅延したため、帰りは5時間かかりました。食べた感想は、日本のようなしっとりふんわりの食感ではなく、中身の詰まったずっしりタイプで、シナモンなどのスパイスの効いた甘さでした。写真のように薄くスライスされて提供されるのが普通らしいです。初めは知っているバウムクーヘンと違うため、何か変わった味だなと思ってしまいましたが、徐々にこれはこれでありだな、などと思いながら美味しく頂戴しました。本場のバウムクーヘンを（しかも入手困難な夏に）食べられて良かったです。



### [最後に]

私が滞在したDFKIでは、ドイツ以外にも数多の種類の国籍の方が英語という共通語で話していたため、2言語以上を話せる人材が世界にはこんなにも多く存在するのだと知って驚きました。そして、国籍に関係なく研究の話から雑談までしている様子を見て、しかもそれを私自身も（未熟ながらも）経験することができたため、相手の意見を理解し私の意見も理解してもらえるとという相互理解の体験ができて非常に楽しいと感じました。さらに、現地の人とお話していると、その人の母国の文化を知ることができ、それと同時に日本の文化の良いところと悪いところを客観的に判断できるようになったと思います。このような日本の中だけに留まっていたら絶対に養えない価値観を得られたため、本当にこの研究留学に参加できて良かったです。研究については、スーパーバイザーとの議論の中で今まで欠けていた専門的な知見が得られ、有意義な時間を過ごせたと思います。今後はこの貴重な経験を活かして、日本と海外との繋がりに関する問題に何かしらの形で貢献できたらなと思います。